

自閉症児をめぐって

—九州・山口自閉症研究協議会の10年—

九州・山口地区自閉症研究協議会

座談会

「自閉症児をめぐるって」

出席

川崎 ナオミ (長崎県立東浦病院)

佐藤 望 (鹿児島県立短期大学)

村田 豊久 (村田クリニック、福岡大学医学部)

一門 恵子 (熊本大学教育学部)

相川 勝代 (長崎大学教育学部)

楠 峰光 (福岡市立心身障害福祉センター)

小林 隆児 (福岡大学医学部)

佐藤 この九州自閉症研究協議会は、7年目からは山口県を含めて九州・山口地区自閉症研究協議会となっています。毎年各県廻り持ちで開かれますが毎回、毎回、内容は下手すると同じ所を堂々めぐりしちゃうような事にもなり兼ねない面もありますね。

一門 最初の頃からすると参加者が多少変わってきてますね。幼児教育関係が増えてますね。

川崎 そうですね。

一門 このような自閉症だけの研究協議会というのは他にはないのでしょうかね。

佐藤 ないんじゃないですか。児童精神医学会は地区組織みたいなのはあるんですか？

川崎 ないですね。全国組織だけです。

一門 自閉症に関しては医学会もずい分前に見切りをつけたようにも聞き及んでますが--- どうなんでしょうか。

川崎 ホッホホ--- それは---。

一門 教育の方も、内容や方法論が一応安定してきて、何か熱が冷めてきているような時期にきてるのでしょうかね？

村田 確かに、小さい子どもについてはかなり“わかる”ところまで皆で検討し合ったかもしれませんが、子供はどんどん大きくなります。それら大きい子供達の適応障害はわからない事ばかりです。この辺から新たに問題が掘り起こされようとしていると思うんですけど---

1) 年長児閉児の問題 -施設とのかかわり-

川崎 今の研究とか治療教育の興味の方は年長児---自閉症児に移ってきてますね。施設の問題とか---

結局---、自閉症、年長自閉症児、自閉症者とかは保護してもらおう法律もありませんしね。市民権がないと親の会は仰言るし、社会的な問題として、私達も何か考えてはいるんですけどねえ---

佐藤 現今--- 自閉症等についても発見が割と早くなってきましたね。保健所での1歳半健診、3歳児健診もありますし、そうするとそれに対する取り組みもわりと早くから一応のトリートメントやアプローチも為されるようになってきたし、親もかなり早くから勉強しますよね。そのため、早い時期にいろんな事をやっているということで予後が昔よりもすこしいのではないかと考えられますが。

一門 そうですね。早期療育の方はずい分と充実してきたとは思っていますが、ただ最近は何か軽いタイプの子が増えてきたと云えるのでしょうか。

佐藤 そこはどうなんでしょう？ 医学的に「軽い」といいますと---。色んな類縁症状も含めて2歳、3歳時、診断名も確認しないまま自閉児という事で、例えばMBD等も含めていきますよね。そのうち、普通学級に入っていくとどんどん発達していきますよね。いわば自閉症という言葉が汎化され広義に使われていろんな“軽い”子が入ってくる場合もありました。その辺の見定めというか、考え方については---

村田 今、小林さんと一緒に年長自閉症の予後調査をしているんですが、30人位になりますかね。確かに仰言るように軽かったのはやっぱり良くて、ものすごく悪かったのはやはりミゼラブルな状況なんですけど---中間層はかなり療育によって変わる可能性があるんじゃないかなと思います。

小林 やはり、ずっとケアし続けた子の方が良いような気がするんですけど。早くから関係が切れて施設なり病院なり入ったケースで確かに状態が悪いから入ったケースもありますが、家庭の事情のため止むなく入ったケースの中には、これはやはりどうしても環境の為に重い状態が固定していると感じられる悲惨なケースもありますね。やはり家庭から見放されるといけないですね。

川崎 2、3年前、長崎で中学年齢以上の子を調査したことがあるんですが、その時点で名大とか東京都のそれよりも予後がよかったんですよ。どうし

てだろうと調べたら、離島の子で就学猶予をした1例を除いては、皆一応普通学級に就学しているんですよ。そして殆どの子どもが、週1日、2日とか、3日とかありましたが、就学前の集団保育を受けているわけです。そうすると古い名大なんかの統計よりもかなり予後が良かったんですね。これから先は今出てるデータよりもよっぽど良くなるのではないかと私はその時思ったんです。それから長崎には非常にユニークな精薄の施設がありましたね。とにかく皆を自立させるという目標でやっているんです。傍からみるととにかく労働もきびしいし、スパルタで---それから食べ物の罰も初めのうちあったみたいですが、そんな施設なんですけどね、1日中常同的なことばかりで何もしなかった子が、15歳過ぎてそこへ入って鍛えられたから、牛を飼ったり豚の世話をしたりそういう事ができているんです。

佐藤 うーん。それは15歳になってから入ったんですか。

川崎 そうです。義務教育を終ってからですから。あそこ今10人以上入りますね。もっと入ってましたか。

相川 いえ、そんなには---

川崎 もう本当に箸にも棒にもかからなくて、年長自閉児の合宿した時なんて一日、雑巾がけするのね。すすめノ とまれノ 雑巾洗えノ といちいち云わなければできななかった子が、今はひとりで子牛を飼っています。だから私、今考えて、子供の時からもっとびびり教育すれば良かったのかなと後悔しているんですけどね---。15歳過ぎてからでも何とか間に合う子供もいるんですよ。

小林 中学までの義務教育を終えてからいい変化をたどる子が中にはおりますですね。教科学習から解放されてから、先生が仰言るような働くことの中に---

川崎 この前事故で亡くなった子ですけど、養護学校の中で落ちつかなくて、

強い安定剤等を投与しなくちゃならなかった子ですが、そこに入って1年位経ったら50頭位の牛を飼育するようになっていて、何かこうすごい労働者に仕立てられましてね、びっくりしたことがあるんですよ。それ考えたら義務教育期間に一体、私達はどういうことをしてあげたらよかったのかなという気もするんですけどね。

一 門　　もっと早く教科書よりも何か作業療法的なアプローチをしていた方がいいのかしら---ね。早くから診断の中に、どのように取り入れていったらいいのか---

村 田　　知恵遅れのお子さんも一緒に？

川 崎・
川 相　　知恵遅れの子の施設なんです。

村 田　　普通、自閉症の子が施設に入るとうまくいなくて不適應を起こして追い出されて了うということがままありますよね。となると、やはり自閉症専門施設は必要なのではという根源的問題にもなってきますね。何かそういう自閉症児が既存の施設に受け入れられないから自閉症のお母さん達は自分達の子供の施設をとということなんでしょう？

楠　　そうですね、さきほど川崎先生が仰言った市民権云々に関わる事なんですけど、自閉症児は何かこう“異常”的色彩が強いでしょう。だから嫌われますね。はっきり言って、精薄施設からは。山口県の方でこの間話されたんですが、山口ではある施設に入れてもらおうとしたら200万円寄付をしなくては入れないそうです。200万その精薄更生施設に出すくらいなら福岡の方に来なさいと言いましたよ。福岡では200万ずつ出して親御さんが、施設を作られるわけですが、同じ200万円出しても頭を下げて施設に入れてもらうか、あるいはその施設の経営者になるか、どちらかと言えばそれは経営者側になる方がよっぽどいいですよ。(笑) やはりこう、重たい手のかかるという事と別に心理的に理解し難いから普通の人はやはり拒否反応が起きると思いますね。　施設でたたかれたU君なんかは“施

設”を脱走して真夜中にタクシーで家に帰ってきてますね。40キロ以上離れてますのでだいぶタクシー代もかさんだでしょうが。

川崎 ただね、愛隣牧場という所は特別な理念のもと本当に子供に応じてやってきてるんですけど、普通の施設に見に行きますと皆、ホールで遊んでるのに自分だけ段の上にすわってね、こうやってたりしてね（ジェスチャー）本当に可哀想で---。その子もやはり家庭の事情で預けられた子でしてね。

佐藤 時間の都合もございましてすこし交通整理してよろしいでしょうか。

今とにかく予後も含めて年長自閉児の事が話題になってますが、更にここらを詰めていったらと思いますが---。さっき小林先生もちょっと仰言ったように、確かに親元を離れて施設に入ってしまうと段々難しい状態になるケース、私の知っているうちでも多いように思えるんですが---。それと今のような施設で、ある意味でスパルタ的にやってもらうと15歳になってもある程度ちゃんとできるようになるといった問題、それから親の会等が施設を作る事等いろいろ考えられますよね--- そちら辺の関連--- どうなんでしょうか。施設で親と一緒に入れるならいいでしょうが仲々そうもいかないでしょうし---。

村田 でも親と居た方がいい年齢と親と離れて他所様できたえてもらった方がよい年齢とあるんでしょうね。

2) 兄弟のかかわり

佐藤 精薄施設ですといろいろ授産的な仕事をさせますね、ところが自閉児は非常に個別的にしないと、これらの社会的な作業には順応できないので施設の中でもそううまくはいかない。とすると、親元でできるような所謂職業的なものをも考えていくとするとどうしても兄弟がその自閉の子に対してかなり関与してもらいたいんですね。ところが兄弟に対して、お前一生こ

の子の面倒をみろとは云えませんよね。

私達は、自発的にその子の為になにかをやらうという気持を持ってもらいたくて兄弟教室や兄弟キャンプを試みてるわけなんですけど---。何とかその子の将来を支えてやってくれるように、親は先に死んでしまうわけですから、兄弟が関与してくれるといいのではないかと思ってるわけなんですけど---

楠 僕は、そういう風に思ってたんですが、この頃、親御さん方と話合っていましたら、本音のところではもうそれ---兄弟児の支え---は駄目ではないかという事になってきましたね。だから施設をとという考えになっているみたいですね。これだけ大変なのを、だから兄弟には見せられないというのが本音みたいですねやっぱり。で僕も、兄弟児だからといって血がつながっているからといって本人の将来もずっと兄弟が面倒をみる、支えとなるといった発想はもうやめた方がいいと思います。佐藤先生の兄弟キャンプも成人までの事と理解しておりますが---

佐藤 勿論、現在の生活の中の支えを主眼目としてはいるんですが-----

川崎 あのー、精神障害者の親の会というのがあるんですが、今まで親中心だったんですけど、大阪の方では兄弟が核となつての会ができてね。活力があつてとてもうまくいってるらしいですよ。みてもと自閉児の兄弟の中にちゃんとした子がいますよね。特殊教育を志した子も何人かいます。先生のところもそういう子いますでしょう？

佐藤 そ、そうです。おりますねえ。（皆 てんでに肯く）

川崎 そういう人達を核にしてやってゆけばできない事はないのでは ---。

小林 てんかん協会でも -- 兄弟が1つの会を作ってますね。

楠 ただ、今までさんざん兄（弟）の為、苦勞してきたのだからこれからの職業ぐらい全然関係ない事すると宣言するのも居りまして --- 当然ですけど---

村田 親と違ってやっぱり距離を以てみるからいい面も多分にありますね --。

川 崎　　うちの自閉症キャンプでね、長男が自閉児で次男が5歳前後という家族居ましてね、その2家族の家同士、キャンプの度に会うものだから2、3年たったらすごく親友になっちゃったんですよ。私の目前に座ってて、2人秘かに話しているのをきくと“僕達の兄ちゃんて皆からおかしかと云って皆からいじめられているけど僕達が頑張って助けてやろうね”と云ってるんですよ---本当に涙が出ましたね、この兄弟がどう育つか楽しみにしているんですね、今春やっと大学に入ったんですが---

佐 藤　　私もそんな経験があります。兄弟教室をやっているんですが、兄弟は小学生の頃はよく来んですが中学になると殆ど来なくなっちゃうようです。兄弟も集まりますと非常に仲良くなっちゃうんですね。毎月1回、20人ほどですが。兄弟は兄弟で非常に悩みをもっているわけですね、とにかく小さい時は障害児本人に母親の手が全部いってるので、兄ちゃんなんかいなければいいという気持になるという反感みたいな感情を皆同じように持っていた、という事がお互いにわかってきて---以上いろいろ話合っているみたいで--- その子達が大きくなってきた時はすこし違ってくるのではないかと期待しているわけですが。

川 崎　　佐藤先生のところはそれはどれくらいの頻度でやってらっしゃるんですか？

佐 藤　　月1回です。

川 崎　　月1回？ 兄弟だけを？

佐 藤　　兄弟だけです。あの自閉の子の集団療育の場を月1回もってますがその時兄弟が一緒に来ます、その時兄弟教室を別に持つわけですよ。で、春に2泊3日のキャンプをやっております。自分の弟（障害児）なんか学校に入学してくる時が（兄にとっては）一番クライシスなんですよ、嫌で嫌でしょうがない、何とか弟を養護学校に入れるとかやいのやいの母親にとか云うわけですが、その態度が非常によくなっていくわけですね。

川 崎　　その春の2泊3日のキャンプというのはこちらの方には親や障害児がや

っていくこっちの方で兄弟児がというやり方でございますか？

佐 藤 いえ兄弟のは兄弟だけ単独にやってるわけです。夏に3泊4日の障害児のキャンプをやりますのでそれに併行して兄弟児キャンプもやりますので年2回兄弟キャンプをやるという事になります。

楠 小学生の兄弟児はすすんで来ますか？

佐 藤 すすんで来ますね。

楠 小学生の間は---

佐 藤 小学生の間は--- ね、かなり仲の良い友達になるんですね。小学生の間は。だからあいつに会うんだという感じで。

小 林 小学校の1年ぐらいから---

佐 藤 1年からです。話し合いやディスカッションを問題提起してからやらせます。 幼児期はちょっと駄目なもので---

川 崎 今の処、一番年上はいくつ位でしょう？ 中学2年生になりましたか。

村 田 そう、僕等そういうシステム持たなかったから、やってみれば--- 楠さんのさきの意見も変わるかも知れない（笑）

楠 そうですねえ、やってみますか（笑）

小 林 以前土曜学級で主催してる キャンプ でともかく家族ぐるみで一緒にやりましょうという事でやったことありますが---

佐 藤 こんな兄弟で専門にプログラムを組んで兄弟キャンプをやっております。

楠 ユニークですね、先生の所は。

川 崎 私達も兄弟皆ついてくるんですよキャンプに---。あの時（兄弟キャンプをしておれば---） 本当に知恵が足りなかったですねえ。

相 川 そうですねえ。

3) 親のかかわり

一 門 兄弟が一緒にいると学生がそっちに気がとられがちですよ。アメリカでは（ワシントン大学ですけど）、これはダウン症のそれですが、あのお父さんと子供－赤ちゃんの時から－がくるんですよ。これは父親から始まって extended-program と云って、おじいちゃんおばあちゃんまで広げていこうというプランで、家族全部まきこんでいこうという意図です。日本では父親が仲々参加しない。疎外された状況の中で日本の父親は悩みを打明ける所もないし、仲々日本ではやりにくいのですよ、今後やっていったらいい領域では---

小 林 両親が、小さい時離婚して父親がいない自閉児ですが、立小便の仕方を知らない子がいましたね。

川 崎 ホッ

村 田 お父さん達は何かのきっかけで会合に1度出ればその後もでてらっしゃるでしょう？

楠 一般論として云えばあまり---。子供の教育は母親まかせという事でしょうね。まあ我々仕事が忙しいせいもありますけど、我々自身も殆ど子供にはかかわらない場合が多いですね。うちも通園施設ですので、父親教室をしますが「父親参観」と称してます。30歳前後の父親達が来ますがその人達に一律に教育---こうすべきであるといった父親教育はまあ男30もなればいろいろありまして---母親教育みたいにはいきませんね。男の人は余程自分が困っていないと人に聞こうという気は起こらないと思うんです。熱心な男親というのは子供をじっくりよくみてて“大変だ”という事がよくわかってるからと思うんです。それで尋ねてきたり、父親教育でも職員の言に耳を傾ける人はそんな人に多い---

一 門 その父親教育はどれ位の頻度でなさってるんですか？

楠 年に2回、3回---かな。

一 門 ワシントン大学の方は毎週土曜の午前中やっています。お父さんが集まってプログラムが決まっているんですね、一緒にお遊戯をしたりおむつを替えたり---

楠 それはですね、ワシントン大のそれはダウン症というはっきりとした障害の子という事で父親の意識がはっきりしてるんですね。我々の所は1歳・2歳の発達の遅れた子をチェックして超早期に小集団保育体制に組み込むわけですがまあ、障害児の親という意識が無い人も多いですよね。まあこれはこれで仕方がないんですが。

一 門 そうですね、そんなに小さい子の療育ではね、ぴんとこないかも---

楠 もひとつは、日本で毎週父親教育しても成功しないと思うんですよ。日本の家族構成というか役割意識から言って。

一 門 それはそうね、生活状況が全然違うからね---

楠 彼等は夫婦はいわゆるパートナーシップでしょう？ だからそれが成立つんですよ。我々は違いますよね。“子育て？ それはお前の役割じゃ”とか云って（笑）

村 田 若いお父さんになってもそれは変わらないようですね。

楠 そう思いますよ。やっぱり原意識といいますか、小さい時から親の在り方をみててそれが自分の生活パターンになっていくから、簡単にはカルチャーというのは変わらないのでは。

一 門 自閉児には強力な働きかけが必要で、例えば雲仙コロニーのあの所長さんみたいな強い人が必要で、家庭でも父親がしつけ等で強力にやる方がいいのかも知れませんね。

小 林 母親の話聞いてても、父親が云うとちゃんと聞いて私が云っても駄目というのがありますね。

一 門 それと同じような事は兄弟児に関しても云えますね。兄弟は手加減がないんですよね、ぴしっとやるんですね。

楠 年長自閉児で他人の秘所を触ってた子がいたんですが、姉にもそれを行ったところ姉から厳しくやられましたものね。それから女子にはやりませんよね。僕はやられたんですが（笑）

一 門 やはり兄弟のそれら手加減のなさは有効なのではないかな---

楠 行動修正にはいいですね。

川 崎 お母さんというのは24時間接触してて子供が目の前にいるからできるんですが、お父さんというのはすごく熱心な人もいるけど、何か子供の障害があることから仕事に逃げようとしてるみたいな人もいますね。1年間、お父さんを連れて来て下さい、お母さんの手ではおえないのだからと言いつけても、出張だとか何とかいって来ない人も居ますしね。

楠 そういう事ありますねえ。

村 田 やはり昭和1桁のお父さんは来ないでしょう？ 子供が高校以上と中学以下では違いますね。

小 林 あれははっきり差がありますね、何故でしょうかね。

川 崎 お父さんがあまり関心がなくて、お母さんが過保護に育ててた自閉児がいたんですが、偏食がひどいし、女の子だったんですが寄宿舎に入れましたらお母さんが一時自律神経失調症とか診断つけられて、そしてうつ状態になっておちこんだんですよ。そしたらかかった内科の先生がいい先生で、何か生き甲斐を持ってと言われて、委託のクリーニング代理業を父親がさせてくれたんですがそれで立直ったみたいですよ。やはりねえ、この子の事は私しかわからないと思って育てていて、その子が居なくなると本当にショックなんですもんねえ。

小 林 村田先生、あの自閉症キャンプのたった3泊4日でもあの子供と離れたお母さんてこう抑うつ的人がいらっしゃいますよね。

楠 そうそうあの最終日の涙の対面というのも大きなセレモニーの1つですね。

一 門 あんな近くに居てもねえ。でも先生、子供が居なくなるとがっかりするお母さんと、あゝあんな子が居なくなってせいせいしたと発らつとするのとどれ位の割合で---

小 林 目に見えてがっかりする人は少ないですよ。しかし、せいせいしたとする人もやはり子供が15歳以上にならないと、そこまでは割切れないのではないのでしょうか。

楠 性格が開与してると思いますけどねえ。僕等朝日の自閉症キャンプでも母親教室を持っているわけですが、やっぱり一緒に酒呑んでワイワイさわる人には落ち込む人は少ないみたいですね。40人から母親居ますから中には酒呑みを白い眼で見る人は居ますが、その人の中には居るみたいですね。

川 崎 やっぱりグループ活動、親の会とかにでて仲間作りがうまい人はやっぱりいいみたいですね。

一 門 自閉児をとりまく家族の問題、大きいですね。それが年長になればなるほど大きいですね。安定してくる面もありますでしょうね。

村 田 母親教室なり父親教室のねらいというのはどういう事からお始めになったんですか？

佐 藤 試行錯誤ですけど--- はっきりした目標づけもこれということなしにやっているわけですが、先ず、子供を客観的に見る態度を養う為に話し合いを持つというねらいでやっていますね。

やっぱりこうしてみると毎回親が集まりますから。先輩の親がですね、子供が割といい発達をしている親がいい先生になってやっていますね。我々がやるよりもむしろいいのでして、親同士の話し合いがかなり有効な気がしますね。

川 崎 そうですね、親は親によって支えられているのが一番大きいですね。

小 林 親同士の話し合いはやはりセラピストというか、中立的な立場の人が中に

入ってやりますんですか？

佐藤 いやそれは年に1～2回位でした。あとはやはり親同士で話し合い啓発してる所が多いですね。

小林 土曜学級の集まりをみましてもですね。ま、経験豊かなお母さん、悩みを乗り越えたお母さん、入って間もないお母さんとグループ断層が3つ位分かっちゃいましてともあれ先輩後輩一緒にやっついこうというより三々五五分れてきたようでは---

佐藤 確かにそれはありますね。こちらが関与しない時はそれぞれ分れちゃって

楠 確かに年長のグループもまたミニ派に分かれますね。それも年代別のような感じがしますが---

村田 一人っ子のお母さん達に、何かやっぱり酷な言い方すれば悟りみたいなものを開いていただいてももらった方がいいんでしょうけど---。何かカリスマみたいな治療者がいてね、ワーといってまきこんで行けば（親の安定には）一番たやすいんでしょうけど---。あれじゃちょっと困るんでしてね。何かすすんでいく治療体験というのが必要なんですけどね。

楠 父親指導や母親学級だって実は先程言いました30過ぎた大人に対してですねちゃんと指導しようと思ったら、ここの先生方は科学者だからそういうことは為さらないでしょうけど、ある程度カリスマ的なドグマ的なものをパーっと打出した方がいいんですね。精神的なものに関してはこう思うと思ったら、こう思えるものですから、こうだーと強く言ってくれる方が親にとってはいいんですね。例えば相川先生は非常に正直だからですね、“ウーム、わかりませんねえ、自閉症かな---いややっぱり自閉症じゃないかな。”と云われたですね、Aちゃんのお母さんに対して。相川先生がああ言われるんで“不信感を感じました”とそのお母さんが云われるわけです。そして“何を言いますかっ！”とってそれが本当の科学者の態

度ですよとさとししました。1歳・2歳の時、それほど症状が明確ではありませんし迷うのは当たり前と云ったのですが---

“自閉症です、こうしたら治る”と心強くパーッと云えば信頼して、あー先生様について来る人もあるでしょうが---

一 門 言えない所がづらい所ですね。

川 崎 今日ね、相川先生と並んで歩いてきながら話したんですけど---。小児科の先生は自信に満ちているのに精神科医は何でこんなに自信がなくてしょぼしょぼしてるんだらうということになったんですけどね。(爆笑)

村 所謂自閉症の場合は民間療法家が盛隆を極めて、何ですね、まあ一時的なんでしょうけどー。それが学会誌でも問題になったんですけど---

川 崎 そうでしたね。親の会の事ですけどうちは数年前までは親同士の話し合いが非常にうまく行ってよかったんですけどだんだんそれが---。例えば若いお母さん達は子供が非常に小さいからまだ前途に夢をもっていいんですよ。年長児の方はもう施設か何かさし迫った問題になってきましてね。うちはもうどんどん年長の親が脱会し始めましてね、特に子どもが施設に入りますとね。この間、緊急の親の会を開きまして、年長児の親に働きかけまして、又、2、3人戻って来ることになりましたが---。そういう風な子供に対する切実感というのが年代によって違うんですけどね。年長のお母さん達は自分達が作ったという意識からかキャンプでも手が足りないとパツと床をふくし、御飯をつぐんですよ。ところが若いお母さんはお客さんに来たような顔をしてこうやって座っているでしょう。ああいう所はやっぱり何か---どうしてあちがうんでしょうね---

小 林 どこでもそうです。

川 崎 どこでもそうですか。

楠 例えば若い職員なんか、これもわからんのか、もちょっと勉強せんか、俺の若い時はなあとい言いたくなる時があるんですよ。自閉児の親御さ

ん達年代が古いほど1人で抱えてかけずり廻ってる人が多かったはずですが、もう少し苦勞を思い出せば苦勞が多かったはずですが、今の若いお母さん達にとっては始めから情緒学級がありセンターが完備されているので療育サービスを受けて当然なんでしょうが---

小 林 若い親御さんが親の会のあいさつの時、とにかく早く会から脱け出したいと云ってました。云われたのは冗談かと思ったら本気でした（笑）。そういう意識が強くなるみたいですね、早く母の会から脱したいという気持ちでしょうが、呆れて、それだけかなと---

佐 藤 私の所はそういうところは全然無いですね。ボランティアの集まりですから皆平等の立場で3、4月経っている親の人も新規の人も同じようです。ただ、他の親の会の方では必ずしもそうでないみたいで脱げたいと思っている人も居るみたいですね。

楠 まあ、切実なことがないと意識化して一緒に活動する気が起こらないのですから考えてみたらいい事はいい事だと思うんですよ。若いお母さん達がそんなに自分で負わなくてもすでに世間、社会がちゃんとする体制を整えているという事は。例えば私の精薄母子通園施設でも対象は3歳以下ですが、古いお母さん達がみると羨しがります。早くから療育のルールに乗せる体制、施設があるという事で。でも今の施設に来ているお母さん達から云えば無理やりチェックされて呼び集められたから何とか早くこの園を出たいと---。（笑）

いえ僕はそれで構わないと思いますよ。

4) 治療的かかわりについて

佐藤 まあ、親の接し方の事ですが、鹿児島ではまだ“受容しなくちゃだめ”
ともかく受容しなさい---きちんとした事は駄目でといった感じで親を指導
している人も居まして混乱が親の中にもありますね。各地区はどうなんで
しょうね？

村田 それだけではどうも --- ね

一門 基本的には受容といったものはあっていいんでしょうけど、親に対して
は具体的に言った方が親子共に落付いてくるんですよ。指導はできるだけ
具体的な方が---

川崎 具体的といいましてもね。私達がいくら具体的に言っても親によく解か
ってもらえない事があります。あ、先生の御質問とはちょっとかけ離れて
ますが。あの私達、このところずるいこと考えましてね、今、整肢療育園
という肢体不自由児の施設がわりと空いてるんですよ、そこの乳児のC
Pの療育指導をやっている園長が非常に熱心なんです。そこに非常にいい
理学療法士がいるんです。長崎には非常に離島やへき地が多いものですか
ら、2歳位の子供についてまずどういう風にしたらいいかということをお
教えるためにそこへ短期間入れちゃったんです。そうすると割といいケース
ありますね。

相川 そうですね、3週間から1カ月ですね。

川崎 あれは--- 延長も出来るのね。離島なんか人口も少ないしそういう子供
も少ない、親も非常に安心しますし、子供にもいい影響を与えるんです。
だから私達はね自閉症の幼児教育の段階でもっと理学療法士の力を借りな
くちゃいけないと思うんです。

楠 感覚統合とか、そんなものですか？

川崎 そんな事も含めてです。例えば小さい子供の場合はトイレトレーニング
とか小さい時からさせるでしょう。そんな時理学療法士が保母さんと

一緒についていく時と、親は納得して非常にいいんですよ。何故いいなと思ったかというところ---私達がやってる研究会に理学療法士がやってきましてね。いかに自立させるかという事を保育所の先生が苦心さんたんして話をしたらね、それはこうこう、こうこうしたらと云うのを聞くと論理明解で現実的に役に立つし、皆納得したんです。

一 門 多様な障害ですからね。そのへんで人材不足なのが日本の状況なんですよ。アメリカでうらやましいのは、そこらへんでちゃんとそろってますよね。精神医学者、心理学者、教育者、先生ですね、それにPT・ST・保母さんOT等専門のスタッフ、人がいるというのが、やっぱりうらやましいところだと思いますね。

川 崎 ニューヨークでSTをやっているカニンガムひさこさんという人がいるんですけど、その人と私達のやっている研究会と、あの一数年前からつながりがありましてね。カニンガムさんが日本に帰ってくるたび聞くんですが、一番うらやましいのはそういうところですね。先生のところなんかはいいですけど、うちなんか1人で何でもやるんです。ケースワーカーの仕事までしています。

佐 藤 日本はなぜそうならないのでしょうか。チームを組むというような---

村 田 それから、組もうと思っても予算がないと組めないんですよ。OTやSTの人がいないし---

佐 藤 私立の病院はいくらでも雇えますよね。もうけておられるような病院なんかが、わりにサイコロジストはいがいにはいますが、もっと他の方達が---

川 崎 それがね、健康保険でね（点数として）上がらない分がたくさんあるんですよ。

村 田 このごろ、ディケアトリートメントというのができつつあるんです。そこでチーム医療というのができているんですけどね。しかし公共団体がモ

デルケースでやっていますが、1人の患者さんに月に10万円位の赤字を市やら県やらが補助してやっているんです。そういうところで、今おっしゃった心理、ケースワーカー、OT、PTの4者位のチームができつつありますけどね。しかし大部分の医者もそのようなチームで治療した体験がない人が多いのではないですか。

小林 児童の方やってると、とにかくチームでないと、とてもやれるもんじゃないというのは、身にしみて感じる、ある意味では医者 of 無力感を感じますね。

大人の方やっている人は個人プレイでかなりやれるところがあるものだから---

村田 先は川崎先生がおっしゃったように、PTがこういう心理運動療法やってくださると、ちょっとヒント与えてくれるだけでもずいぶんいい。

川崎 わたしがあんまり驚くんで、PTの人が自分がびっくりしましてね、そんな当たり前じゃないですかという顔をして、又おどろきましたね。

一門 どんなふうな事だったか覚えていますか。

川崎 なんか、どっか不自由なところがある子供なんですよ。それにね、いかに上手にごはんを食べさせるかという問題だったかしら。保母さんが苦労したけど、これだけしか出来なかったと報告したらね、その人がさらっと云ったんですよ、言われてみたら当たり前なことなんですけどね。私そういう発想ができなかったんですね、トイレの問題だったかな、とにかく基本的な自立のことだったんですけどね。

村田 やっぱりCPの方の運動療法やってらっしゃるような---

川崎 そうです。

村田 心身障害児の運動療法というのもなんかCPの方の運動療法やっているうちにかなり精神的な面のはねかえりが多いところの発見からこうできてきたんでしょう。

一 門 最近の動作訓練を自閉児につかっているのと、やっぱり違うところがありますね。有効性が、いろんな解釈があって今ひとつわからない。

川 崎 カニンガムさんのお話をきいて、私たちがよだれが出そうなのは、各パートがこの人の障害は、自分部分からみればこういうことであるからね、こういうプログラムも作ってやるんだって、そういうのを出してスーパーバイザーみたいな人が全部チェックしてそして半年間やるんだって？ 3カ月？

相 川 3カ月やって査定して---

川 崎 3カ月して3カ月後の結果を査定してやっていくというんですけどねー

相 川 本の紹介を---NHKから“そしてきょうせい”というのを1日に出版されました、事例がのっています。カニンガムひさこさんの著書

楠 治療教育施設には---公立が多いせいがある。資料をたたかれる事があまりないので、という事が1つと、公立が多いでしょう、どうしても、だから査定がない。あれはちゃんと子供を査定するんでなくて、逆に自分が今度は査定されるということでございましょう。誠意とか、人情とか、人間的にとか、いうことはああいった感覚が違う連中の間では、要するに合理的なことではないと通じないので、ちゃんとマニュアル化していきますね。一番おどろいたのは、西南大に来てた先生でブルウィットさん、知能テストをしてたら、それがそのままプログラムにせんといかんと--- そんなことを言いましたね。測定だけのつもりでいたけど、それは別の解釈もありましょうが、ぼくらは受容して、誠意を出している方がよりいい感じがしますが、それは彼らの感覚でいったら宗教観でしょうね---と思います。だから仕事としてしてたらやっぱり彼らみたいに1つの具体的なあれをプログラムを組んでいくのが本当のような気がします。---ちょっと教育関係者というのはなにを言い過ぎましたね。人間的にとか、その誠意とか、どうもそういうのを。 それは前提条件にすぎないんじゃないでしょうかね。逆に

いえばぼくはそれはきつuitと申いますよ。

村 田 今日本の先生方はそうでもないでしょう。誠意、ヒューマニズムとあんまりおっしゃらない---

相 川 具体的な資料を上げて、指導効果を考えていきますよね。

一 門 それも教具までね、この教具を使って、こうしなさいという指導の仕方ですよね。お母さんの方が一所懸命教具を使ったりしますけどねー。絵カードつくったりねー、型はめみたいなものを作ってみたりねー

川 崎 あの一、カニングムさんという人はねー、何年か前にね、全米で一番優秀な教師とかのなんか賞をもらったとかの努力なんですよ、カニングムさんの本を読んで非常に驚くのはカニングムさんの特質なのかそれともアメリカの元々のスピーチセラピストなんですよね。でアメリカのその言語治療の教え方のあれがそうなのかもしれませんかね、なんか創意工夫に満ちている感じなんです。カニングムさんの仕事がね、どっちなんでしょうねー。カニングムさんの性質なのかなー？

相 川 彼女はいつも思いどおりにいかないで悩んでおられる。

賞ですけどねー、10年ほど前にアメリカ精神薄弱児協会で、その年で一番すぐれた教師を表彰するそうですね。

臨床部門の最優秀研究者に選ばれたそうです。

とても恥ずかしいんだけど、とてもけんそんしていますけど、とても積極的な先生でした。

5) ウイング先生の事など

佐藤 この辺でまとめを---。だいたい10分から15分程度お話頂いてと思いますが---

一門 そんなにしゃべることないし---

楠 ま、考えのまとまられた先生から先にどうぞ。

一門 そうと知ってたらあんまりビール飲むじゃなかった。最後に大きな問題が-----。

川崎 責任能力が低下してから----- (笑)

小林 対談形式だから展望を。明るい話をですね。

一門 明るい話? (笑) また難しい。

川崎 あの、相川先生とね汽車の中でそれぞれ本を持って来たんですけどなんとなくこう、どう言ったらいいかな。結局しゃべって勉強しなかったですけどね。まあ、あの研究会に出ればだいたいどこの県がどういうことしてるかということわかりますけどもね。この10年間の各県の自閉症に関するいろんな動きとかね、現在の状況とかそういうこと話すだけでいいんじゃないかっていうことになって、あとはふたりとも非常に気楽になって来て来たんですよ。

村田 ウイング先生が来られた時のエピソードなんか。

一門 あったらねえ。先生何かないですか、先生の御印象とか-----。

川崎 3年前ですかねえ。先おとどし、あれはねえ全くウイング先生が呼べるなんて思ってもみなかったんですよ。そしたら、あの学会はこのごろ理事の中で学会担当理事ってのを2人ぐらいつけてくれて、いろいろ知恵をかしてくれるシステムになってるものですから理事会に行ったとき、今度の学会で何か希望あるかって言われたんですよ。それで長崎に帰ってきて長崎の研究会でこう言われたけど、あのシンポジウムを何というテーマにしようか、特別講演をどうしようかと言ってたらみんなウイング先生呼ぼう、呼ぼうということになったんですよ。だけどイギリスからお呼びするって

いったら大変なお金がかかるし、まあ夢みたいな話だけど言うだけ、言うのはタダだから言おうかなんて言ったら、たまたま京都の方でウイングさんをお呼びするという計画があって、非常にうまくって京都から長崎までの旅費と宿泊費さえお持ちすれば長崎で呼べることになったと、来て頂いたんですけどね。

楠 僕はそのウイングさんに接したことないんですけど、どんな先生ですか。

川崎 ウイングさんですか。

楠 はい。

川崎 あのね、あたり前のおばさんなんですよ。そして非常にね、何かこう、服装なんかもね、たとえば、学会に行くんだったら私達だったらちゃんとした服着なきゃと思うんですけどね、ウイングさんはね、ごくあたり前のね、スーツだったけ、ブラウスとスカートぐらいでね、さっと出てきてね、それがさまになるのね。非常に飾り気のない人でね、あのウイングさんの本読むと非常にウイングさんの優しさってのが本に出てますでしょ。本当にあの通りの人なんです。で、あの、先生が今度大阪に行って来て、エルガーさん？

相川 ええ。

川崎 お話聞いたら、エルガーさんの方がよっぽど貫録があった。

相川 ホッホッホッ。

川崎 飾り気のない、本当にね、ドクターというよりお母さんっていう感じね。それであのー、うちの教室のね、非常に英語のたんなるお若い若奥様のドクターがね市内観光について行ってくれたんですよ。そしたらね、もう好奇心が旺盛でね何かっていうとね意外な質問がいっぱい返ってくるんですって。非常に知的な好奇心にあふれてる方ね。

相川 ストアーに行ったんですよ。

川崎 そうそうそうそう。なんかのどが痛いからねキャンディーみたいな、ハーブキャンディーみたいなのが欲しいっておっしゃるから行ったら、あれにしようかこれにしようか、こっちが何とか言ってねずい分そういうことで時間とったりね。ごく当り前のおばさんなんですよ。本当にあの人はいい人だったわね。わたし今まで人にサイン貰うなんて考えたこともなかったけどね、みんながウイングさんにサインしてもらってるの見たら急に私もサイン貰いたくなっちゃって。(笑)

本当に魅力的な人でした。だけど本当にね、文は人をあらわすっていうのはこういうことなんだなあをつくづく思いました。

佐藤 ウイングはラターのところでずっとなさった方ですか。

相川 いっしょの研究グループでしたね。

川崎 そうですね。いっしょのグループなんです。

村田 全くお考えが違っているんでしょうね。臨床学が。

川崎 うーん、はっきりはおっしゃいませんけど。

村田 読んだご本、読んでうける印象ってのは違うようですね。疫学者と臨床家の違いがある。

一門 はぁはぁはぁ。なんかそういう感じうけますね。

川崎 だから、なんかウイングさんの本読むとね。例えばカナーがね、一番最初の本で自閉症児の親のことについて書いていることを否定した後で、ただ自閉症児のいろんな状態像をあんなにねみごとに書いた人は、親についても研究しているんだから、これについてはやっぱりちょっと考える必要があるってなことちょっと書いてらっしゃるでしょ。ああいうところみるとねえ、なんかこう、ウイングさんっていい人だなあって気がするんですよ。本当、ラターさんに来て頂いたのは、デタラメ言ったら儲けちゃったっていうような、棚からぼた餅っていうかんじでしたね。

相 川 どうせだめなんだから誰でもいいんですよ。名前をあげましょ、あげましょ。ラターだウイングだとか言ってですね。それで先生が理事会にいらっしゃった時ですね、言って来て下さいよとか言ってですね。そしたら帰って来られたらウイングさん呼べそうよ、なんておっしゃるものですからびっくりしてしまっただけです。

小 林 あれである学会、ずい分参加者が多かったですね。

川 崎 ええ、わりと多かったんです。

小 林 あれはもう超目玉であって、ウイングさんの話を聞きに行こうちゅうて。

川 崎 私たちはウイングさんの英語がとってもきれいなクィーンズイングリッシュだと思って聞いていたんですけどウイングさん自身はね、その観光案内についていってくれたうちの若いドクターにね、私のことには何とかなまりがあるんだけどあなた気がつきますか、なんてね。なんかずい分自分の言葉について非常に敏感にねおっしゃっていたみたいです。そしてあの、どうせ長崎に来たんだからっていうんで、原爆のあそこの、ウイングさんご案内したんですって。そしたらもう、ものすごく熱心に見てね、なんかあそこのあれに何か書いてたっておっしゃる-----?

相 川 あ、そうですか。

6) どう理解するのか

小 林 汽車の中で新しい文献-----最近のその数年間の自閉症に関する研究---どのような印象をお持ちですか。あと、あかりが見えるかどうか。

一 門 これはっていう何か知見がでてきてるんですかねえ。

川 崎 別に今のところ無いですけどねえ。

一 門 先生のご本にさらに新しいものをつけ加えようとするものがあるのかしら、ないのかしらと思って。

川 崎 名古屋の石井先生なんか最近ちょっと書いていらっしやいますけどね。

石井さんの論文読まなかった？2つ程あったの。あの私たちが考えているよりもなんかわりと出現頻度が高いっていうふうな統計がなかった？

小林 小奇形の話ですかね。

川崎 疫学的な-----。

小林 自閉症の出現率ですね。

川崎 はい。

小林 先の学会で、去年も。

一門 何パーセントくらいになってましたの、出席率は。1万分の4とか、そんなもんだったかしら。

川崎 もっと高いんですよ。

佐藤 ずい分前？

一門 ずい分前だったけど。それより高くなってきていますから。

小林 従来の研究よりもかなり高いですよ。豊田市をモデルにしていたみたいですよ。

川崎 はいはいはい。

小林 あそこはトヨタ自動車の名前だから多少人口のかたよりがあるから。

川崎 そしてね、今まで郡部と都市部でね差があるって言われてたけども、郡部の方が高いってことでしたかね。

小林 ああそうですね。

一門 あの統計的に多いですね。

川崎 統計的にみるとなんかちょっと違うものがあるんですね。最近の自閉症はなんか、生化学的なアプローチっていうのが非常に盛んですね。

佐藤 そこら辺どうなのでしょう。薬物等のいろんな復活等々でてきている傾向というのは。

村田 自閉症のジャーナル見てもこのごろ生物学的な研究が多いですね。また、あの非常に結果がかなり違っててどこに照準おいていいのかわかりにくい

と思うし、またエチオロジーと結びつくような画期的な研究はないじゃないかっていう気がするんですけどね。薬物療法というのはかなり重要視されてきてるし、ぼくらもよく使うようになったと思うんですけど、なんかやっぱり原因と結びついた薬物療法というよりも治療教育をしやすくするためのいいコンディションをつくる薬物療法じゃないかと思うんですけどねえ。

しかし、その意味では薬物療法がともかく実際的な意味で、どれくらいがいいのかかなり経験が積まれてきたように思うんですが。

佐藤 わたしこの頃考えることなんですけど、ずっといろんなことをやって幼児期にかなりの発達をしてきてなんとかいけるような子供と、以然として関係の障害があって難しい子供とかなりはっきりしてきたようなかんじがありますねえ。それがどこに差があるんだろうか。2才、3才ぐらいの時の状態をみればあまり変わらないような気がする。ところが6才近くなってくると、こう開いてきちゃう感じがでてきますね。そうすると、自閉症の本態は何かというのは別にして、村田先生のご本にも書いてあると思うんですが、いわゆる身体図式の問題ですね。自己の存在の認識というものがいわば難しい子供は関係ができてこない。従って象徴機能も発達してこない。対人的な関係ができてこない。ま、いうことでいつまでたっても関係がついてこない。片方の方はかなり良く発達してきて言葉もでてきて、知的な面も発達してくるのはわり合いによい身体図式、ひいてボディイメージですね。それがかなりできているんじゃないだろうか。どうもそこら辺の差がありはしないだろうか。という気がするんですけどね。そういう自己認知というものを、生物学的な根拠で考えていくか、あるいは精神分析学の自我心理学あたりで考えていくのかというこのふたつの立場がどうもあいそうな気がするんですけどねえ。生物学的な、神経生理学的な面は正確にはわかりませんが、ものの本によれば右半球の頭頂葉あたり

がボディーシェマを作っていくのに関係があるとかいうのがありますが、何かいわゆるボディーシェマ、少なくとも自分の身体図式というものを作るこの神経中枢的なところがわり合いに、きちんと神経生理学的にあるのかどうなのか。しかし、身体図式ができてボディーイメージができて、自己という存在がわかって言葉ができている子供も依然として広い意味の知覚の障害のようなものがある。でこれはある程度訓練することによって、この概念の形成等々できてくるような気がするんですけど。それで一応は普通学級の適応はしていくけれども、それでうまく上級まで行けるのはわずかで、小学校3年生ぐらいになると又難しくなってきたというようなケースが多くなりますねえ。そうするとまず最初に身体図式をきちんと作る、この何か治療教育的なアプローチをできるだけ低い年齢のところでインテンシブにうまくやれるものなのかどうか。

村 田 はあ、そう思いますね。でもとても難しい問題ですね。確かにはじめスタートラインがいっしょでもね、良くなる子と足踏みする子がいますね。おっしゃるように良くなったってことはなんか自分というものがあって、そういう相手との交流ができるようになっていくのでしょうか。中根晃さんの本を見ても自己概念の形成なんていうことまでのべられています。まあ自分がわかってくる。それが社会性をつくっていく。その基礎となっている、身体的なベースを求めるとなると非常に難しいと思うんですけど。

私たちは、ラターさんのあの説ができてからまず言語発達を重視するようになって来て、言語ということだけに目をとられていたんですけど、しかし、言語が出てくるとかなり社会性がうまく発達するかというと、そうでもなくて言葉がなくてもわりと自己認知が良くて関係づけがいい子どもがいるような気がします。そうすると、なんか非言語性の認知能力で身体図式にもとづいた行動がうまくとれる子供の方がいいんじゃないかという気がするんですけど。それが神経心理学から見て、どう

いう分野かというようなことはちょっとわかりにくいんですけど、なんか言語を中心とした領域以外にもうひとつ別な対人認知能力があるような気がするんですけどねえ。アジュリアゲラという人がはじめてそういうこと言っていて、自閉症と関係があるんじゃないかと指摘したんですけど。あの残念なことに言語の機能の方は訓練がきくけど、そういう失行的ないわゆる身体認知能力の形成のようなこと、或は失行の改善ということはなかなか訓練が効きにくい。そういうことを見るとやはりむずかしいでしょうかねえ。その辺でいちばん迷っているんですけど。

小林 一般に、言語性が低くて動作性が非常に高い場合が多いわけですけど。去年は十亀先生にキャンプに来ていただき、お話聞いた時に言語性が高い自閉症児は決して予後が良くなくて、一番大変なのが多いんで、かなりやはり動作性が高いのは重要で必要だけれど、言語性が高いのが決してプラスのみにはならないんじゃないか-----ということをお話されてましてですね。

言語性が割とよくて動作性がちょっと悪い自閉症者って少ないんですけどたまにおりましてですね。そうすると動作性の低さっていうのはいろんなことが反映しているんでしょうけど、今、村田先生のお話のように対人関係の非常に基本となるボディーイメージの形成の悪さをかなり反映していることがあるもんですから。対人関係面で言語性はあるから、かなり理解はある。しかしどうも基本的なところではやはり対人的な関係のとり方がわからなくて、知的にかなり良いがためにかえって私からみるとやや精神病的な不安を起こしやすいような子がおりましてですね。そうしてみると、必ずしも言語性が高いからいいとは言えないんだなあという気がしましてですね。

楠 僕もそのいわゆる能力面、能力というもの以外の何か、最初のサイコテイクなという考え、それから後にはただの心身障害的な発達という考え、また-----というわけでした。僕自身は発達障害という概念にくくられない

何かあるんじゃないかというような気になってきましたですね。本当に。

村 田 あ の、この研究会が始まった頃、Journal of Autism and Childhood Schizophrenic が丁度出ましたね。そこでラターさんがかなり言葉、言葉ってなことをやられたもんですから、バルタックさんの言葉の論文で勉強したり。また、ITPA日本版がでてきたこともあって、もう言葉の勉強ばかりという時期がありました。私たちの子供の言語発達の勉強には良かったけれども、自閉症の子の治療教育を考える上で随分僕もむだしたなあって考えます。やっぱりつまるところ僕もさっき川崎先生がおっしゃったウイングさんの本を読み返してみても、やっぱりカーナーにもどってしまうのですね。あの子供たちの生き様の自閉っていうことの中に病態があって、そこでやっぱり診断も治療もなされなきゃいけないのでという。

楠 やっぱりサイコティック・チャイルドということですかね。

佐 藤 そこはどうなんでしょうか。

一 門 私もそこら辺がわからないんですよ、何か。つき合いたくないからつき合わないのか、言語が理解できないからつき合わないのか、他者はそれぞれ個性を持った存在であって認知できないからつき合えないのか。そういう言語と認知とその情緒面の障害の絡みみたいなものがあるんだろうと思うんですけどね、そこをもう少し分析的にとらえていかなきゃいかんのかなあと思いながら、何か細々と研究もやっていますけどね。いろんなところで壁にぶつかりますね、こっちは認知のところを試しているつもりがそこに言語が媒介っていうか介入するからそこでできなくなるのですかね、肝心の実験で。例えば、性別がどのくらいわかるかってなことを試そうとすると男女いろんな絵を持って来て分類させるわけですよ。その時にこっちが男とか女とかいう言葉を使うとそこでひっかかってくるんですよ。分類させるのに。ま、そういう分類課題も仕様がなから使うわけですけどね。そういう単純な性別認知みたいな課題でもできない子供が自閉児の中

にたくさんいますね。そうすると性別みたいに3、4才児が100%通過するぐらいのところはわからないとなるとこれは対人関係の障害に相当影響するだろうと思うんですね。自己の性別、他者の性別ですよね。ほかに性差などがたくさんあるわけですね。性役割とかね。その辺の認知もうまくいってない。だから差恥心なんか育つはずがないですもんね。性別を意識してないんですからね。でまあ、いろんなところで逸脱行動とか問題が出てくると思いますね。最近もあの、普通学級に行っている子どもですけど、命令されれば裸になってしまうとかね、また人前でもオナニーをやるとかってことをですね。お母さん達のものすごい悩みになるわけですね。だけどそういうのをどういう風にして指導していけばいいのかというところでまた一つ難しさがあるんですけど。それからもう一つ、人の美醜とか美しいとかね。そういう外見の問題、そういうところの認知がどのくらいできるのか、これは更に難しいですね-----。

楠　　そうですね。認知の面ではある程度の改善ができて、いわゆるより精神的な認識といいますかね、ああいった面でやっぱりどうしてもそういう壁に。でその理由がわからないから、結局サイコティックということにしてしまおうかなあっていうような自分の心の中で感じますけどね。さっき言いましたが、また元に戻ったというような感じはそういうところから来るんでしょうかね。自分自身の問題ですけど-----。

小 林　　しかしあのー、自閉症児も段々と女の子にやっぱり興味を示しましょう。そうして、興味もそれからやっぱりめんくいだというような-----（笑）
僕は。そうじゃないですか？

楠　　めんくいかどうかは知りませんが。

川 崎　　あのね、私達が年長児キャンプをした時にあのー。たっちゃんいくつだった？11だった？

相 川　　そうですね。

川崎 11ぐらい男の子がね、あの、そこの私が泊まっていた施設の若奥さんにもう熱あげてね、もう暇さえあればその人をジロジロ見に行くんですよ。で、どうしたのって言ったら、たっちゃんが一番好きな人って言うんですよ。その程度のね、あれはありますね。

楠 確かにありますね。

一門 何が好きかなっていうのはね、何か、以外にね、色気とかきれいだからとかそんなところのあれじゃないかもしれませんね。様相がね。

川崎 その時にね、わあー、たっちゃんも異性に関心を示したって私達喜んでますよね。お母さんから叱られましたね。それが親の苦勞の種ではありませんかって。(笑)

楠 同じ行為のそういう特定の異性に行く場合もありますし、それから年長の中で女の、他の女親にですね、母親に非常にこうベターっと行く場合がありますね。その人にこう。

一門 何かベターっと添い寝みたいにしてね、お母さんにくっついて寝る子ども達がいましてしょ、年長の子で。

楠 ただこの系統の障害の子に例えば男なら男を小さい時から好むというのがおりませんか？先生方の子供の中で。3才5才のときからですね、男だけにこう、びちっとひっついてくるというような。

一門 女の子が男の子に？

楠 いや、男女どちらもですけど。そういうのが。

佐藤 うん、あのー、男ばかりくっついて女によりつかない子がいますね。

楠 すごく親和性を男に持ってましてですね。男のこの膚のにおいなんだろうか、その顔形にあるのか、なぜなのかしきりに考えたことがありますけど。

川崎 いや、それはね、家庭の中でもね、非常に父親っ子っていう男の子、割と多いんじゃないんですか。

一門 そうすると何かの基準で性別をね、そこでしているわけですね。そこが

何なのかね、もう一つつかめないところですね。

佐藤 この乳児期の母親とのアタッチメントが形成されてこない等々からどっかがうまくできてないと。大きくなってはなかなかこれがむずかしくなってきたり、というようなことが考えられますね。むしろ、純粋神経学的なものであればですね。たとえば、成人の脳卒中等々で、言語障害や半身不随などぎおきてもリハビリテーションやることによってバイパス通っていくわけでございましょう。動かすことができるようになるようなメカニズムがあるとすれば、ある程度の年齢になっても適切なトレーニングや治療教育というものがあればかなり発達していくものかどうか。

川崎 私も4才ぐらいでね頭にけがしましてね、全く失行失認失語になった子供を治療したことがあるんですけど。2名ぐらいありますけど。その子供たちはねえ、ホントにねえ、みごとに立ち直るんです。ま、それとねえ自閉症の子供さんたちと比べると全く違いますからねえ。このごろ折線型の経過をする子供っていうの、なんかあのいくつかでていますけれど、その人たちどんなですか。ある年齢までわりといい発育してダメになった子供たち-----。

村田 はいはい、ありますねえ。

小林 あの折れ線型-----

村田 栗田さんという方がくわしく研究していますが、予後はあんまり良くないようです。

川崎 そうですねえ。

小林 今度まとめたのではまあ、むちゃくちゃに差はない。傾向としてはあるけれどもクニックも子供自身が身体的な大きな病気にかかって、それがきっかけでクニックになったのと、やはり家庭が非常にクリティカルでとい

うか、そのためにかなり情緒的なストレスとなってクニックになったのと両方あるような気がするのですが、情緒的な方がより悪いということがわかりました。

楠 そりゃ、理屈つけたらつけられますけどホントの意味で理屈がつくんだらうかとホントにアクシデントみたいな形で家族に何の原因もないのに起ったというようなケースが重いんですけどね。おこったのは1才半から2才くらいですか、多いのは。

川崎 私は次の子供が生まれたのをきっかけに急にダメになったというのを---

楠 先生それはですねえ、ぼくの経験ではさらにずっとよく聞いていったら擬記憶みたいになっている場合が多いです。また、何カ月かたって同じことを聞きますとですね、これが少し微妙にちがいますし、下の子を産むために預けとったらその間になったとかですね。やっぱりいろんな事柄がありますけど-----あの、姑との問題だとかですね。いろんなやっぱり危機的な状況があるみたいですけど結局それは、そういう事に原因を負わしている女親がですね-----多いなあという気がして-----。必ず2回3回別な角度から聞くんですよ。そしたら、やっぱりそれに帰せられないような気がしましてですね。ぼく自身の確信としてはこれはあきらかにアクシデントに間違いないと何かで脳の中に起った、そういうアクシデント。ダイナミックス的なことはですね誘因としてもちょっと無理やなかろうかという気がします。

小林 しかし、どうですかねえ。環境要因、ダイナミックス等きっかけにはなっていることは確かだろうと思いますけど。

佐藤 今、私どもの日曜学級に兄弟が5組あるわけなんです。5組のうち3組はクニックなんです。

川崎 どっちがですか。

佐藤 下がです。

楠 ああ。

佐藤 下も上がそうだったんで下もだいたいはじめからそんなかんじなんです
がね。3組はあきらかに2才近くまでは連れて来たことがあるんですけど
もねえ。そう思って見てないから完全な健常かどうかわかりませんがね
え。だいたい健常に近かった。けどもだんだん全然関心がなくなって、
自閉症になってしまったわけなんです。そうすると今、言われた何か、
少し心因的なものがあるのかなというかんじがしないでもないんですけど。

一門 経過を見ていても？

佐藤 やっぱりかえって下が悪い場合がありますねえ。下の方が上はわりあい
にそれなりの発達をとげても、下がなかなかむずかしい。2例は下がなか
なかむずかしい。

楠 いやあ、あのぼくはひとつあきらかにこういう折れ線に間違いはないと思
うケースで言葉言っていたのが言わなくなったとか、それから表情、反応
ですね。3つの方からきいて、それでも又何カ月かたって又聞き直します
と、そういえばやっぱり反応自体はとぼしかったとかですね。0才何カ月
のそういう陳述をしだしてくる場合もあるんですね何人かは。そしたら先
程擬記憶と言いましたけど、あるいはクニックを作ったということもち
よっと考えられます。記憶の中でですね。あの女親がですね、ホント二典
型的に起ったと思っても最初はそうですけど、こうつづいていきますと
ですね変ってくる。だからあんまりあてにならない場合もある-----

一門 否定する人もいますね。

小林 去年の学会では、あの安藤はるひこさんなんかはクニックの存在を否定
とかよういいませんね。そりゃもう、クニックはあるといえばあるし、
ないといえばないんだと。でもあのクニックは幼児期のことでいいすけ
ど、それ以後はクニックといえばクニックになるような発達がばあっと落
ち込むのがおりますですね。そういう面ではやはり、かなりきっかけがあ

るのが多いんじゃないですかね。今度調べたのでH君ですね、今〇養護学校に行ってるんでちょっとよう聞いたら、数年前ちょっと悪くなったのがおばあさんが具合が悪くてもう寝たきりになっちゃって、おシメかえたりなんかお母さんが一生懸命やって手がかかっちゃって、それで子供にも行き届かないせいもあったんでしょうけど、もうおシメをとにかくしょっ中つけかえるのを見てましてですね、排尿にまつわるトラブルを急におこし出しましてですね、本人のおばあちゃんが亡くなったとたんにそういった形でとりいれた反応をおこしたですね。だから大きくなってもやはりクニックは弱い子供はより起こしやすい。

一 門 一時的な退行じゃなくて継続的に-----?

小 林 何度も----- あの子供たちは。

楠 B君はよく続きますね。

小 林 すごいですね、1年半ですかね。

おもしろいお話がありましたね。

あのいつか職場でどうもお腹のぐあいかわるかったみたいなんですよ。それで水洗トイレに行こうと思ったらその時、ちょうど水洗トイレが故障で水が流れなくてですね、しかしとにかくしたいわけですね。それでしたはいいけど、その後の始末にこまりましてねそれからどうしたかという、クリーニング店だからビニール袋はたくさんあったものだからビニール袋とってきてですね、自分で手づかみでビニール袋に入れてましてね、そしてその後とにかく一生懸命手を洗っていたそうですよ。それでさかんに匂ったりして、それで職場の人が不思議がって何しよるかと言って、そしたらあの、それをおもむろに持ってきたそうです。これって。

(全員 笑)

小 林 ま、水洗便所が流れんもんだから彼はやっぱり何とかしなくちゃいけな

いと知恵をしぼったんでしょうね。(笑)

これは、自閉症児じゃないとせんのやろうと思ったですね。(笑)

楠 バランス感覚の欠如といいますかねえ。気になったらそっちの方がものすごくあれなんでしょうかねえ。

小林 まじめちゃ言えばまじめですね。

楠 非常に軽い自閉でC子というのを覚えておられますか、女の子で。あの、この子はですね、普通学級にはじめからずっと行ってますけどもう3年、4年になっても男の子からからかわれますよねえ。感覚がちょっと違えばもうわかりますからねえ子供は。非常に敏感な感受性をもってますからおあってこうやる。ほんでこう見せれ見せれちゅうわけですね。で、もうせからしいからパッとスカートをはぐって見せるわけですよ。(笑)

親ががっくりきて落ち込んで来まして、まいいやないですかとか言ってますね。能力的には高いし、もうまあまあとかわざと言って。

ミニキャンプを仲のいい7、8人でやります。それで親といっしょにこうちょうどトイレがなかったって言うかあれですよ、がまんしきれんですよ。そのトイレがなかったわけやないですけど、玄関でですねパットやったんですよ。(笑)これは別な自閉の子D子の事ですが---

小学校4年も5年もなってですよ。さすがにですね我々もウンと首をひねった-----。

小林 その後どうしたでしょうか。

楠 そりゃ何にもしてないですよ。

(全員 笑)

一門 今日はもう勉強させて頂きました。篠崎先生のピンチヒッターで。佐藤先生、最後に今後の展望は。

佐藤 むずかしいですねやっぱり。

一 門 結局、協議会はいずこへ行くのやら。(笑)

佐 藤 とにかく、この障害がどこらへんの時点で発症してきたかというのはまだあんまりわかりませんですよ。生後直後とか、いろいろ生まれつきかもしれないし、で、今あの東大の小児科の小林登先生が中心にやっておられる母子相互作用研究班のあの研究から、いわゆる胎児医学、それから出生前心理学等々がだいたいこの数年で出てまいりましたよね。胎児の心理的な母親との交流がかなり超音波やなんかで胎児を観察しながら母親のこの情緒的な問題と胎児がどう反応するかが判ってきた。そうするとこの胎生期になんらかの生物学的な原因になるかどうか全くわかんないにしても、その母親の心理学的な状況によって胎児の神経系の発達とか、組織というのがどっかこうアンバランスになっているとかね。そんなようなことは考えられるんでしょうか。

川 崎 何年も前にねある学者がね、妊娠中のお母さんが精神的なストレスをうけた症例とそうでないのを対比して調べて、ストレスが多かった群にいろんな小奇形とかね、そういうような障害の発生が多かったっていう報告出したんですよ。で、私非常におもしろいと思ったから抄読会で読んだら2、3カ月したらそれと全く反対の何もないという論文が出てがっかりしたことがあるんですけどね-----。(笑)

村 田 いろいろ面白うございました。いろいろありがとうございました。本当に-----

川 崎 なんか本当にゆっくりしゃべれたというかんじですね-----。

一 門 4時間で本当にしゃべりたい事をしゃべった感じですが-----しかし、かなりテープカットする事もあるみたいですね。

佐 藤 テープカットすることばかりで。(笑) 何もまとまった形ではできませんが、今日はこの九州自閉症研究協議会の各地の先生方にそれぞれ自由放談という形でお話いただきました。どうも有難うございました。

発 行 昭和60年1月12日

発行者 九州山口地区自閉症研究協議会
代表世話人 川崎ナヲミ・村田豊久

発行所 鹿児島県立短期大学心理学研究室内
九州山口地区自閉症研究協議会
鹿児島地区委員会

印刷所 西日本高速印刷

TEL (531) 1766

定 価 800円